

只見町ブナセンターだより

【次回企画展】

Tadami Biosphere Reserve

ユネスコエコパークが描く只見の未来

2014年7月26日(土)～10月13日(月・祝)



6月に只見町と桧枝岐村の一部は、ユネスコエコパークに登録されました。この地域の自然の豊かさと自然と共生する人々の暮らしや文化が、国際的に評価されたことを示します。

一方で、この数十年は、私たちの生活は大きく変貌しつづけました。その間、只見町は将来のよりどころを模索しつづけました。長年の模索を経て、只見町はユネスコエコパークに値する町づくりを、今後の方針と定めたのです。

ユネスコエコパークとはなんでしょう。只見町の向かう先とはどこでしょう。企画展を通して、皆で考えましょう。

〈講座〉南アルプスユネスコエコパークの概要と将来の展望

日時：9月27日(土) 13:30～15:00

講師：増澤武弘氏 (静岡大学理学部特任教授)

〈観察会〉沼ノ平のブナ林を歩く

日時：9月28日(日) 9:00～15:00

※ご予約、詳しい情報は、只見町ブナセンターまでお問い合わせください。

【企画展】絶滅危惧種ヒメサユリのすべて

2014年4月26日(土)～7月21日(月)



4月26日(土)から開催している「絶滅危惧種 ヒメサユリのすべて」では、豪雪地帯の限られた地域に咲くヒメサユリの可憐な姿とその生態を、写真入りのパネルで分かりやすく解説しています。また、日本のユリと世界のユリについてユリの歴史など、書籍や標本での展示を行っています。

【活動報告】

■ブナセンター講座

〈田子倉の昔を語る！〉4月20日（日）



企画展「田子倉集落の生活と文化」に合わせて、ブナセンター講座「田子倉の昔を語る」が、開催されました。現在は、田子倉ダム湖底に沈んでしまった田子倉集落が、一体どのような場所だったのか知る為に、田子倉集落出身の方々をお招きし、当時の生活や文化などを座談会形式でお話していただきました。5名の語り部の方にお越しいただき、町内を中心に25名の方が参加されました。

お話は、田子倉の産業、歌舞伎、婚姻、冬の暮らし、子どもの頃の遊び、ダム建設時の状況など多岐にわたりました。ダムに沈む前の田子倉集落は、雪が4～5mも積もる豪雪地帯で、ゼンマイなどの山菜がたくさん採れるほか、川にはサクラマスが浅瀬を埋め尽くすほど遡上してくるなど、大変豊かな土地柄だったそうです。また、シシ山（クマとり）でクマが怖くて逃がしてしまった笑い話や、幼いころの思い出話をたくさん聞くことが出来ました。休憩室でブナセンター講座を行うのは初めてでしたが、笑いがあふれる和やかな講座となりました。

■春の自然観察会

〈春植物を愛でる！〉5月4日（日）



今年は雪解けが早く、フクジュソウの開花が進み当日の開花状況に少し不安がありましたが、天候にも恵まれ、フクジュソウの大群落では、開花から果実までの観察を行う事が出来ました。

フクジュソウ以外には、カタクリ、キバナノアマナ、キクザキイチゲなどの春植物（スプリング・エフェメラル）が咲く姿を観察することが出来ました。また、絶滅危惧種になっているユビソヤナギや雪食地形などの観察も行われました。町内外から22名の参加があり、にぎやかな観察会となりました。

〈春のブナ林を歩く！〉5月5日（月・祝）



昨年は、雪解けが遅くブナの芽吹きを見ることが出来ませんでした。今年は残雪も見られ、美しい新緑のブナ林を歩くことが出来ました。

ブナの雄花や落葉の下に隠れたブナの新芽、交流広場では昨年の春に寿命を迎えた国境の大ブナが横たわる姿など、様々なブナの姿を観察することが出来ました。

また、折り返し地点の板倉山眺めでは、オオイワウチワが咲く姿も見られ、町内外から12名の参加がありました。

■只見町ブナセンター運営委員会 5月28日(水)



「ただみ・ブナと川のミュージアム」セミナー室において、平成26年度只見町ブナセンター運営委員会が開催され、運営委員および事務局、併せて14名が出席しました。

渡部勇夫ブナセンター長の挨拶をはじめに、運営委員会が開始されました。今年度より運営委員の新任期となったことから、委嘱状交付式を行い、

運営委員と事務局各々が自己紹介を行いました。その後、会長および副会長の選任が行われ、会長には学識経験者であり只見の自然に学ぶ会代表の新国 勇さん、副会長は会長の推薦により只見町小中学校校長会会長であり明和小学校長の渡部早苗さんが選ばれました。その後、新国 勇委員長の司会進行で議事が行われました。

議事は、平成25年度の事業報告が行われ、運営委員会からの質疑を受けました。

只見町ブナセンターとただみ・ブナと川のミュージアムとの2つの名前があること、条例に指定管理者制度による管理とあることについての説明を求められ、組織名と建物名との使い分けであるがブナセンターに統一されたこと、指定管理者制度を採用する可能性を見越して条例に入れてあるが、ブナセンターは町にとって重要な施設であり、町が直接運営していることが説明されました。

また、入館者数については、ブナセンターの努力が評価されましたが、わかりやすい看板をつくるべきだとのことご意見をいただきました。子供が体感できる展示を用意すること、学校向けのプランをつくることなども提案があり、今後検討することとなりました。

次に、平成26年度の事業計画についての説明があり、質疑応答では、自然観察会のガイドの手配や広報について質問がありました。

自然観察会のガイドは、基本的にはスタッフが担当し、大人数の場合にはボランティアに協力を依頼する場合もあることが説明されました。

広報については、ホームページのほか、チラシ、ポスターを配布していることが説明されました。

最後に新国 勇委員長より、運営委員に対して、「ブナセンターは原石のようなものであり、みなさんや町民の力でさらに磨いていってほしい」との要請があり、閉会となりました。

■ブナセンター講座 〈只見地域のヒメサユリの分布と生態〉 6月21日(土)

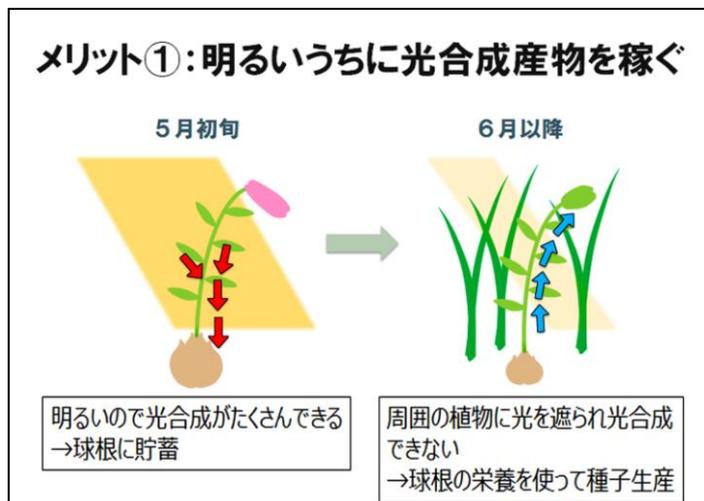


企画展「絶滅危惧種ヒメサユリのすべて」に合わせてブナセンター講座が開催されました。講師の、大曾根陽子氏(首都大学東京・客員研究員)は、2012年より只見町の「自然首都・只見」学術調査研究助成を受けて、ヒメサユリの調査研究を行われ、その成果を発表されました。

調査研究を始めた当初は、ヒメサユリについてほとんど知らなかったそうです。生態について解ってきたのは、調査2年目からで、今年は、本格的な調査に入りたいという事でした。

只見町は、日本海側の多雪地域に分布するヒメサユリの生育地のほぼ南限です。浅草岳の雪田草原や雪食崩壊地の草付きの所や、定期的に刈り払いが入るスキー場などに生育し、可憐な花を咲かせる姿が、町内の高地から低山地までの広い範囲で見られます。

ヒメサユリは、他のユリが盛夏から晩夏に花を咲かせるのに比べて開花が早く、春に雪解けとともに芽吹いてから1カ月ほどで花を咲かせます。



早く開花できる秘密は、翌年に咲かせる花芽を秋のうちに作ってしまうからだそうです。それに比べ、ヤマユリやオニユリなど、雪が降らない地域にも広く分布するユリは、その年の春に芽を出してから花芽を作るそうです。

夏の短い多雪地帯で生き残る為に、発芽から種子を作るまでの期間を短くし、他の植物が生い茂る前に十分な光合成を行う戦略と考えられます。

只見町には、「自然の生育地」と「定期的に刈り払いが入り管理された生育地」の2ヶ所があります。人の手により管理されているヒメサユリは全体的に大型になり、花つきも良くなりますが、果実に虫による食害が起きやすいなどのデメリットも確認されているそうです。

当日は、町内外から35名の方々が参加されました。講座の最後には、質疑応答や意見交換が活発に行われ、ヒメサユリについて理解を深める講座となりました。

■自然観察会 〈開花中のヒメサユリの自生地を訪ねる〉 6月22日（日）



企画展に合わせて自然観察会が行われました。はじめに、間近でヒメサユリ見ることができる百合平で、開花中の花を観察したり、香りを楽しんだりしました。ヒメサユリは、種子がまかれた翌々年に初めて1枚だけ葉が出ます。ゆっくり時間をかけて成長し、花をつけるまでには5年以上かかります。1枚葉の状態、複数葉の状態など成長の様子をじっくりと観察することができました。



続いて、入叶津の人手の入らない自生環境で咲いているヒメサユリを見に行きました。雪どけの遅い川岸の草地の中に数本のヒメサユリを見ることができました。当日はあいにくの天気となりましたが、町外を中心に16名の方々が参加され、可憐なヒメサユリの花を楽しみました。



【今後の活動予定】

■2014 年度只見町ブナセンター年間行事予定

開催時期	行事名	備考
7月26日(日)～ 10月13日(月)	企画展 ユネスコエコパークが描く只見の未来	6月に登録が決定された只見ユネスコエコパークについての概要説明と、今後の展望をパネルなどで説明します。
8月27日(水) ～31日(日)	町外展 〈県内展示・会津若松展〉 「自然首都・只見」展	開催地：会津若松市文化センター 1F 特設展示室にて開催 ※詳しくはチラシをご覧ください
9月27日(土)	ブナセンター講座 南アルプスユネスコエコパークの 概要と将来への展望	講師：増澤武弘 氏 (静岡大学理学部特任教授)
9月28日(日)	自然観察会 沼ノ平のブナ林を歩く	観察地：浅草岳沼ノ平
10月26日(日)	写真教室 只見の風景を撮る！	講師：猪又かじ子 氏 (写真家) 撮影地：布沢集落を予定
11月～12月	企画展 只見の天然資源とその利用	高い自然度を誇る山林原野が広範囲で広がる只見町では、どのような天然資源の利用が行われてきたのでしょうか。パネルと合わせて現物展示、解説を行います。
11月を予定	ブナセンター講座 天然資源を利用した里山の生活	講師：未定
11月22日(土)	秋の料理教室 只見のそばを食べよう！	講師：平出美穂子 氏 只見町で採れたそば粉をつかって、色々な蕎麦料理に挑戦します！
1月～3月	企画展 只見地域における鳥類の分布と生態	只見町に生息する鳥類を、パネルで解説する他、写真と剥製の展示を行います。
1月か3月を予定	ブナセンター講座 只見地域の森林の鳥類	講師：上田恵介 氏 (立教大理学部生命理学科教授)
1月か3月を予定	自然観察会 冬のブナ林を歩く	観察地：下福井地区、楢戸地区を予定
冬季予定	ブナセンター講座 ニッコウイワナの生態と保護	講師：未定
冬季予定	料理教室 身近なブナ林を歩く	観察地：未定

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



只見町ブナセンター

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>

■fax 0241(72)8356 ■E-mail info-buna@amail.plala.or.jp